



# 鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

**「妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬いなさい」**

聖書(エフェソ書5章33節)

牧師 河合裕志

キリスト教式で結婚式を行う人は結構多いみたい。なぜなんだろう。普段別に教会に行っている訳でもないのに。ウェディングドレス等へのあこがれからか。それもあるかも知れないけれど式の内容にも引かれるところがあるのでは？

「誓約」のところで牧師が聞く。「あなたはこの姉妹(兄弟)と結婚し、神の定めに従って夫婦となろうとしています。あなたはその健やかな時も、病む時も、これを愛し、これを敬い、これを慰め、これを助け、そのいのちのかぎり、堅く節操を守ることを約束しますか」。この言葉には感じ入る。

そこにはイエスの語ったところ、「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」(マルコ10・9)が覚えられている。更にパウロがエフェソ書5章で述べたところも反映している。彼は冒頭に掲げた言葉の他にこんなことも記している。

「妻たちよ、主(キリスト)に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体(教会)の救い主であるように、夫は妻の頭だからです」。

「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。……夫も、自分

の体のように妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです」。

どうだろう。古風？ 抵抗を覚える？ 「夫に仕えよ」とか「夫は妻の頭」だとか。これは一寸ついて行けない。浪花節の世界？ 確かにそんな響きもある。現代女性にはご免こうむりたいところ。

ただ私の感じでは、妻が一步退いて出来るだけ夫を立てる、自らはナンバー2に甘んじる、これが賢い妻というものでは？ 言い換えれば夫をうまく操縦するということに。

パウロは妻に厳しいことを言っているけれど、そこはバランスをとって夫にもかなりの要求をしている。「キリストが教会(私達)のために御自分をお与えになった」とはキリストが十字架に示した犠牲的愛、これ以上の愛はないという愛を示している。妻に代って死んでもいい位の思いをもって妻を愛せよ、とパウロは勧めた。

夫婦間の愛、仕え合いを教えた誠に美しい言葉に違いない。ただそれに沿って歩むことは容易ではない。神とキリストの私への愛と奉仕を常に覚えながら夫婦間の愛と奉仕に更に進むことが出来ればよいのだけれど。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時